

令和4年度（2022年度） 第3回熊本市教育の情報化検討委員会 会議録（要約）

- 1 日時 令和5年（2023年）3月7日（火）13時30分～15時30分
- 2 場所 熊本市教育センター 2階中研修室
- 3 出席者

【委員】

放送大学 教授 中川 一史（委員長）  
熊本大学 教授 塚本 光夫（副委員長）  
熊本大学 特任教授 前田 康裕（委員）  
熊本県立大学 教授 飯村 伊智郎（委員）  
熊本市PTA協議会 会長 松島 雄一郎（委員）  
出水南小学校 校長 上妻 薫（委員）  
必由館高等学校 教諭 金井 拓（委員）  
白川中学校 教諭 三角 貴志子（委員）  
尾ノ上小学校 教諭 岡本 亜紀子（委員）  
あおば支援学校 教諭 満生 真史（委員）

【熊本市（事務局）】

教育センター 小田所長  
教育センター 職員

- 4 配付資料 別添のとおり

- 5 次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 議事
  - ア 話題提供  
全国の先進事例、動向について
  - イ 自由討議
    - (ア) 熊本市学校情報セキュリティ対策基準策定について
    - (イ) Jamf Parent 及びスクリーンタイムの展開について
    - (ウ) iPad 用インストールアプリの整理について
    - (エ) 情報化推進チーム実践事例集について
    - (オ) タブレット活用状況に関するアンケートの実施結果について（速報値）
    - (カ) R5 学習者用タブレット端末利用についての同意書について
    - (キ) 次期タブレット端末等更改に向けて
- (4) 閉会

## 6 議事の内容

開会 (事務局)	ただ今より「令和4年度(2022年度)第3回 熊本市教育の情報化検討委員会」を開会します。
定足数 (事務局)	それでは、本日の出席者数につきましてご報告いたします。 本日は、10名中、10名の委員が出席されており、委員総数の過半数の方が出席されていることから、熊本市教育の情報化検討委員会運営要綱第5条第2項の規定に基づき、検討委員会は成立していることを報告いたします。 なお、この検討委員会の議事録及び資料を熊本市のホームページに掲載いたしますことをご了承ください。
挨拶 (事務局)	それでは、開会にあたりまして当教育センター所長の小田が、委員の皆様にご挨拶を申し上げます。 【小田所長 開会の挨拶】  なお、自由討議の「ウ iPad用インストールアプリの整理について」は、今回議事から外させていただきますのでご了承ください。  検討委員会の議長は、熊本市教育の情報化検討委員会運営要綱第5条第1項の規定に基づき委員長が務めることになっておりますので、議長、議事の進行をよろしくお願いいたします。
中川委員長	みなさんこんにちは。よろしくお願いいたします。 ぜひ忌憚のないご意見を色々と頂ければと思っています。
話題提供 全国の先進事例、動向について	「この2年半の道のり フェーズ3への道」ということで、GIGA 端末が全国に入って2年半、全国でたくさんの学校、自治体に関わっていて、思ったことを最初に少し話をさせて頂こうと思いました。 文部科学省の最新の実態調査で、初めて教育用コンピューターの台数が児童生徒数を超えた。つまり、どこの学校に行っても、必ず端末があるようになったということです。本当に大きな変化だと思います。 逆に言うと、この2年半で、一人一台端末をどう使うのかっていうのが一気に進んだということです。 そうなってきますと、いろいろと見えてくるのが、このフェーズなんです。結局、たくさんの学校に入って私が感じるのは、フェーズは3つだということです。まず一年目の時は、この第1フェーズ「とにかく使ってみよう」という段階。今はもうこれはだいぶ言われなくなり

ました。

そして今、全国の学校のおそらく95%ぐらいは、ICTならではの、デジタルならではの使いかたを追求するとか、従来の教材教具（例えば紙のノート）とロイロノートのような協働ツールを使うのとどちらが良いか悪いかを検討するような、第2フェーズに入ってきました。実は、この第2フェーズに入ってきたというのは、デジタル教科書を本格的に導入している今の時期ということも実はあります。

第1フェーズから第2フェーズには、割と簡単に行きます。ところが第2フェーズと第3フェーズの間には、実感としては、厚い壁があります。

第3フェーズは、児童生徒自ら適切な活用を判断するという事です。先ほど95%ぐらいまでが第2フェーズだと言いましたが、逆に言うと5%ぐらいしかないということで、本当になかなか第3フェーズに行くのは難しい。このフェーズを言葉に書いてみると、（第1フェーズ）「使ってみる」（第2フェーズ）「使い倒す」（第3フェーズ）「使うかもしれない」。一見、第3フェーズの方が後退しているように見える。でも、例えば今（私の話を聞いて）ボールペンで書かれている方もいるし、入力している方もいるし、頷いている方もいるし、大人は「使うかもしれない」です。「なんで端末持ってこなかったんですか」って私言いません。でも授業だと、端末を出すのが遅かったり、いつまでも出していると叱られるんですよ。

これは第2フェーズだと私は思っていて、つまり今の皆さんのような、使いたいツールでメモを取ったり取らなかったりするこの状況がいつから子どもは許されるのかという話です。逆に言うと、いつまで一斉に使わなくちゃいけないのか。ここのところを超えていかないと、第3フェーズの「使うかもしれない」にはならないということです。

今までのICTの活用という、いわゆる共有で使っているその延長上には第2フェーズしかない。これを深掘りするしかないです。ここをどうするのかというのが、全国を回っていてとても壁だなと私は感じています。

そうすると、やっぱりこの「しやすさ」をどこまで追求できるかという話だと思います。だって端末を使わないと授業できないか、そんなことはない。一つの例をご紹介します。小学生が、デジタル教科書の画面に（びっしり）書き込んでいます。紙の教科書にここまで書くかって絶対しませんよね。消しゴムがあるからといってしません。なぜするかというと、すぐ消せるからです。すぐ消せるからすぐ書く。結果として、デジタル教科書が読むだけのものでなく、メモする教科書

前田委員	<p>になっている。これは何かというと、書きやすい、消しやすいという、「しやすさ」がまさにあるということです。</p> <p>もう一つ、この「使うかもしれない」ということでは、今、デジタル教科書の話をしました。昨年私が主査をやっている中で、デジタル教科書の授業映像を小中特別支援各教科撮りました。これは中学校1年生の社会科ですが、キャプションで「気づいたことを直接文章で書き込んでいる生徒もいました」と書いてあります。「書き込んでいる生徒『も』いました」ということは、書き込んでいない生徒もいるということです。つまり、こう書きなさいと先生が言っているわけではなくて、これでメモが取りやすい生徒はこれで取るし、隣の子は紙で取ったりするわけです。要は、端末に書き込むことが大事なことでなく、自分の思考のメモになっているか、思考を深めるために使えるのか、そのために何をチョイスするか、そういう力をどうつけるかという話です。</p> <p>第3フェーズに到達するのに必要な、個別最適な情報収集力、整理分析力、発信力、熊本市の言い方ですと情報活用能力、こういう力をどうやってつけていくのか、どこまでつけるのかが今後の課題。もし、第2フェーズの途中ぐらいで終わるとしたら、私、一人一台端末いらないと言われると思います。そこが今結構際々に来ている。それで最後に、当たり前を見直してみることが大事で。先ほどメモの話しましたよね。皆さん私の話を聞きながらメモを取っています。でも小学校では「今はペンで書く時間じゃないって言ったでしょう」「手は膝、目はこっち」と言うと思うんです。そうしないとうまく区別ができない子もいるかもしれない。そうではない子もいるけれども、一斉に今までの学習規律としてそうになっている。</p> <p>新しい情報活用能力育成と書きましたが、まさに今の皆さんのように、自分で必要だと思ったときに必要なタイミングに必要なメモの仕方をするような力を一体どこでつけるのか。これを考えていかない限り、今後のこのGIGAスクールの後、ネクストGIGAは無いなあという感じがしていて、さあ熊本市はどの辺をどうこれから突き詰めていくのかというようなことを考えながら全国回っていたという話を最初にさせていただきました。</p> <p>質問ありますか。前田先生、解説をしていただくとありがたいです。</p> <p>やはり今までの、先生が教科書を開いて、指示を出して、「分かる人」と言った時に分かる子が手を挙げて、板書してまとめるような授業をずっとしていると、こういった道具をどのように使うかわからない</p>
------	--

	<p>か、自分で判断できないと思います。それこそ授業観、学習観を変えないと。中川先生と同じ考えです。学びとる学習に変えていかなければならない。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>そうですね。だから本当に熊本市は良いキャッチフレーズを出されたと思います。「学びとる」って本当に大事な言葉で。ただ、その中身が多分色々な先生によって解釈が違うと思う。学びとるということは一体どういうことなのか、今一度考える良い機会だと私は思っています。</p>
<p>自由討議</p>	<p>これより6つの話題について自由討議として、各委員のそれぞれの立場から意見をお伺いして議論を深めていきたいと思っています。</p> <p>まず「ア 熊本市学校情報セキュリティ対策基準策定について」、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在、熊本市学校情報セキュリティ対策基準の策定が大詰めを迎えております。対策基準、実施手順、ハンドブック、ハンドブック簡易版の4種類を、来年度の早い時期に各学校におろし、運用を進めていく予定です。</p> <p>「学習者用モバイル支給端末の管理」の運用について、「教職員は、児童生徒のIDは、秘匿管理し、他人に利用させてはいけないことを指導する」「教職員は、児童生徒のパスワードを他人に知られないように指導する」という文言があります。この文言を元に、実際にセキュリティを担保し、かつ学校現場でより良い運用ができるためのIDパスワードの管理をどのように現場におろして行くかを最終確認しているところですので、そちらのご報告をさせていただきます。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>ただいまのご説明に対して皆さんからご意見ご質問ありますか。本当に大事なところですよ。特に簡易版があるのが個人的にはすごくいいなと思っています。「大事なことから読んでくれ」と言われても、このボリューム（多すぎて読めない）ということがありますが、簡易版があることで、目を通してくれる機会が多くなるのではないかな。さすが、いろいろと用意されているなという感じがしました。ありがとうございました。</p> <p>次に「イ Jamf Parent 及びスクリーンタイムの展開について」、事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	<p>JamfParent (iPad の使用時間を保護者が設定するアプリ) について、昨年、モデル校で2回の検証を行いました。結果としては、保護者の方々から設定する方法がわかりにくいという意見が非常に多くあり、現状で全市展開をするのは厳しいという判断に至っております。設定してもしていなくても、あまり必要性を感じていない保護者が大多数でありました。ただ、保護者から直接教育センターにお電話があることもあり、本当に必要だと感じている保護者もやはりいらっしゃいます。ですので、全市に展開するのではなく、必要とされる方だけに勧めることも今後可能ではないかと考えております。</p> <p>今後、JamfParent と同様、スクリーンタイムも視野に入れて考えていきたいと思っております。</p> <p>スケジュールとしては、令和4年度中の展開を見送り、令和5年度に入り、JamfParent 及びスクリーンタイムのそれぞれのメリットデメリットの検証を行う予定です。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございました。今日の委員の方々の中で、検証対象の学校はありますか。</p>
事務局	<p>この中にはいらっしゃらないです。</p>
中川委員長	<p>皆さんからご質問、ご意見ありますか。</p> <p>では事務局の方にですが、引き続き行っていくということによろしいんですね。</p>
前田委員	<p>この検証にはとても意味があると思います。今までは、例えば保護者から「うちの子は長く使っているから」って話になって、では一斉に何時まで、何時間というふうに、一律に決まりを決めていたと思います。しかしやってみると、その必要性を感じている保護者もいらっしゃると思うが、そうでない保護者の方がかなり多かったことは結構重要なことで。では個別に対応しますとか、そういう取り組みになっていくと思います。竹内和雄先生が、何時までと決めると逆に使用量が増えるというデータを出されていて、例えば9時までと決めたら、9時までなら使えるということではいっぱい使うようになると思います。ただ、その時間を制限することに一長一短あるので、その子に応じた対応をするのが本当は一番いいと思います。それが明らかになったという意味でも非常に意味のある調査だったと思ったところでした。</p>

中川委員長	非常に大事なところですよ。ただ、そういう形でそれぞれ希望に応じてとなった時に、例えば煩雑さなどの課題が出てきますか。
事務局	<p>今後スクリーンタイムの検証をしたうえでということにはなりますが、教育センターにお問い合わせをいただいで、どうしてもということがあれば、Jamf の検証期間であった時にも対応したように個人対応が可能だと思います。スクリーンタイムはそれぞれの端末から設定なので、お問い合わせがあれば、おすすめすることもできると思います。</p> <p>スクリーンタイムは（設定が）わかりやすいので。そこで、保護者の方々と子どもさんたちと話し合っていて、タブレットの使い方を考えていただく、という風にはできるのではないかと考えています。</p>
中川委員長	わかりました。ありがとうございます。個人的には、これが入って、どうするというやり取り、コミュニケーションが各家庭で生まれること自体が、すごくいいなと思います。
松島委員	そうですね。保護者が考えるということ自体が大切だと思いますし、私としてはもうちょっと心配されている方が多いのかなと思いましたが、必要性を感じてない保護者が大多数だったのが若干意外です。それはそれで、個別にその家庭でルール作りをするのが、本当は一番大切なことなので、そちらの方に向かっていく方が良いのかなとも思いました。
中川委員長	ありがとうございました。他にどうでしょう。
金井委員	<p>高校生の場合、入学時にスマートフォンをほぼ全員買ってくるので、スクリーンタイムまたは android 端末の「使いすぎストップ」といったアプリケーションについて、入学時にリーフレットを配布し、学年主任から、それぞれで話し合っていて使い方を考えてくださいと話しています。そういったことをこの4年間ぐらいしています。私自身も日本的な、何かあったら会社がブロックをしますよとか見せませんよというのが基本的にずっとある状態では、このICT機器を上手く使いこなしていく点においてすごくバリアになっているという感覚を持っているので、学校から家庭の方にいろんな使いかたについて喚起していくことはとても大事だと思います。なかなか難しいところがあるけれども、話し合っこれをすると親子喧嘩も減りますよという感じで最初に出しています。ですので、導入に向けてパンフレット資料が</p>

<p>中川委員長</p>	<p>あると良いと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>今の金井委員のお話にもありましたように、令和5年度の検証が非常に大事なところになる感じがしますので、また事務局の方で引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>次に「エ 情報化推進チーム実践事例集について」、事務局からご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>本市では、各小中学校の方で情報化推進チームを結成しています。年に2回研修を行い、前田康裕教授を中心に、各学校で熊本市の目指す授業改善や校内研の活性化について先行事例等をご紹介していただきながら取り組みました。その最後に成果物を全学校から提出していただきました。</p> <p>その中から、小学校15、中学校5、合計20の事例を、熊本市の実践事例集として作成しているところです。これを熊本市が目指す授業ということで、広めていこうと考えております。その一部を紹介します。</p> <p>この実践集には3つの意味があると思っています。1つ目は、先生方に横展開していくこと。2つ目は、頑張っている先生方にスポットライトを当てたいという思いもあります。3つ目は、これをホームページに展開し、保護者や子どもたちに広がっていけばともっています。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>ありがとうございました。今のご説明に対してご意見、ご質問、ご感想等々いただけたらと思います。</p>
<p>前田委員</p>	<p>事前に見せていただいて、非常に感心したのは、従来の、先生から教えてもらう授業ではなく、全部、子どもたちが何かを創造することによって問題を解決していく学習になっている。自分で問題を設定して、教えてもらった情報に新たな情報を加えて、より深く理解するという学習ができています。そういう学習の仕方を共有することによって、それぞれの学びが、「友達はこういうふうに学んだんだな」という、学びとるやり方も理解していくということですね。だから、そういった学習を推奨する意味では、非常に魅力的な実践集になっている。つまり、先生が教えるのにタブレットは便利ですよということではなく、子どもたちが学ぶのに非常に便利だということ。そういうコ</p>



	<p>ンセプトになっているのは非常に素晴らしいと思います。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございました。表現することによって理解が深まるということがミソだなと感じました。他にいかがでしょう。</p>
三角委員	<p>そういう学習の仕方を我々教師が、大人がしていないので、これが本当に学ぶことになるのかということを説明する必要があると思います。我々はずっと、例えば入学試験のために先生が黒板に書くのをノートにしっかり書くということをしてきたわけですが、それで点数が上がっていたところがあるので、それこそが学習だと思っている大人は、動画を作って何になるんだろうと疑問に思う方もいる。でも実際に、全国学力学習状況調査等の点数が高いのは、課題を自分で考えて解決している子たち、それから自分たちで話し合ったり考えたことを共有したりする子たちの方です。だから、より能動的に学習していた方が、本当は点数が取れるということですね。何らかの形で、つまり意味づけも一緒に広げていかないといけないと思ったところでした。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございます。そういう意味では、この事例を20に絞った意志がそこに反映されて、すごく良いと思います。私も山ほど事例集を作ってきましたが、往々にして多くと考えると。そうするといろいろなものが混ざるので、そういう意味ではメッセージもついていていいなという感じがしました。</p>
上妻委員	<p>この事例の中に（本校の授業を）選んでいただきました。多分その先生もやってよかった、自分たちがやったことは間違っていないと思えたと思います。総合的な学習の時間の中で、校庭にある樹木について、その特徴などを調べて図鑑を作ろうということをしました。取り組む中で、ネットで調べたものをそのまま使うと著作権に反するから自分で撮った写真を使うとか、そういうことをいろんな人から教えてもらったり、自分たちで学んだりして、オリジナルの図鑑を作ったという形です。時間と労力を子どもたちも先生も使ったと思いますが、これこそ本当の学びというか、学びとる学習ができたと思いますし、これをやっていることが価値付けされた。点数とかに表れないものですけど、国語でやっている調べ学習のことを総合的な学習の中で使えたという意味でもよかったと思いました。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございます。最後に言われたことはとても大事だと思いま</p>

	<p>す。よく教科横断とか言いますが、具体的にどうしていくのかイメージできないところに、まさにほかの教科領域でやったことがこう使われたというのはとても大事なことで、そのところが本当に校内で共有できるのは素晴らしいと思いました。ありがとうございます。ほかの方がいかがでしょう。</p>
岡本委員	<p>本校も1人職員の事例が出ています。この先生がされることは、うちの職員の中でも少し飛び抜けていて、私も含めてその他大勢の人たちは、フェーズ3というのがなかなか手探りでわからないところがあります。いろんな学校のいろんな先生方のこういうフェーズ3の実践を見る事が出来ると、私たちも取り入れて生かすことができそうなので、今すぐほかの職員、先生方にも見せたいという気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございます。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございます。これはもう公開されていますか。</p>
事務局	<p>今最終的に、おうちのかたや先生方に最終確認をしている段階です。今年度中には配信をしようと考えています。</p>
中川委員長	<p>わかりました。ありがとうございます。ぜひ、本当に市内の全校に見てほしいです。</p>
松島委員	<p>保護者さんも見れますか。</p>
事務局	<p>保護者さんこそ見ていただきたいなと思っていて、私も実際こういう教育を受けてこなかったもので、こういう風なんですよというのを見ていただきたいと思います。</p>
松島委員	<p>もちろんそれがいいと思います。保護者さんはほとんど見たことがないと思います。わたしもこの会で何回も授業の様子や、先ほどの成果物を見せていただいて、それを見ると、ほとんどの方はああすごいなあと感じ、理解も進むと思います。前田委員がおっしゃったように、我々世代は、この中身やこういうのがなぜいいのかというのは全く分からないと思うので、ぜひこれは保護者さんにもどんどん見せていただいてという形でお願いします。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございます。これは市教委、教育センター印で出るところに意味があると思います。なので、本当にその推奨として、どんどん</p>

<p>三角委員</p>	<p>出していくべきだなと委員長としても思います。宜しくお願いします。</p> <p>中学校は、ほかの教科の授業を見る機会が少ないのが、どうしても仕方がないところもあります。こうやってまとめてみると、自分の教科の授業も、ほかの先生方どうされているのかなとか。また、ほかの教科がこのヒントとなって、自分の授業にここが使えるとか、また、小学校でこんなことをやってきているから、中学校ではこんなこともできるのではないかなとか、そういうたくさんヒントになると思いました。もう一つ、タブレットを使っていて、本当に力になっているのだろうかと思われる保護者も正直いらっしゃるのが現状です。そういったところに私たちはこういう目的でこういうことを目指して、そしてこういう力がついているというのを訴えていたり、伝えていたりしないと。そのあたりの理解を充分していただいて、子どもたちにも、自分たちがやっていることが力になっているというのを実感させていくというのもとても大事なと感じているところです。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>ありがとうございました。最後に言われたことはとても大事だと思います。教員研修とかは教員側に立つのですが、子どもたちが自分がやっている学びに意味があると実感するのはすごく大事なことで、そのところを、我々どう深め広げていくのかというのは、また今後も議論したいなというところですね。ありがとうございます。ぜひ出るときには大々的に告知を。</p>
<p>塚本副委員長 事務局</p>	<p>中学校が少ないような気がするが。</p> <p>これを初めに作りたいなと思ったきっかけが、中学校でした。中学校は難しいという話題がよく聞こえてきますが、推進チームの先生方の研修でこれを集めたときに、中学校の先生が頑張っている。すごくいい実践がいっぱいあると思ったのが本当に始めたいなと思ったきっかけです。その先生に「なんでこういう実践ができたんですか」とお尋ねすると、小学校でやってきた子どもたちが、中学校で先生たちに「こういう風にしたいですか」と聞かれたそうです。その子が「平家物語の面白さを伝える番組を作ろう」を作り、報道番組のように、平家物語の面白さを伝えていました。こういうことを少しずつ広げていければと思います。先生方にこういうのができましたよ、またしたいですっていうことを伝えたら、じゃあ次自分たちも頑張ろうと思ってくださるといいなと思います。</p>

<p>塚本副委員長</p>	<p>中学校でも多分もっとたくさんやられている事例があると思います。そこをピックアップしていただければありがたいなと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>本当に発掘したいと思います。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。 先生方もそうだし、保護者もそうだし、本当にいろんな方に目にしてもらうのはとても大事なことだと思います。いいタイミングで出るなと思います。 もうひとついいなと思ったのは、事例集というと紙媒体が多くて、動画が入れない。でも動画があって、一緒にイメージできる事例集だというのが、結構あとでボディブローに効いてくるという感じがします。良い新しい形の事例集だなと思います。</p>
<p>飯村委員</p>	<p>今、先生方の色々なお話を聞いていて、熊本市だけで閉じておくのはもったいないとすごく思いました。今中川先生もお話されましたけど、デジタルでマルチメディアでのコンテンツを残しているということを広く熊本市を越えて発信するような仕組みを考えたらいかかかなと思います。せっかく Books で作っていますので、熊本市は、Apple Books の ID を取って、そこにどんだんライブラリとして公開して行って、日本全国の方々、是非そこを見てください！というような形で外に向けても積極的に発信をするような形をご検討いただくと、もっと日本全体が熊本市から発展していくような、そういう起爆剤にもなるのかなと思います。あとは、先生方が色々言われましたが、これを出す前にやはり、このタブレットを使った学びというのが、このような能力につながっているということをしっかりと先に伝えた上でこのこれがないと、誤解を招く可能性もあるなというのがあって、そこがしっかりおさえられていると、これがすごく輝くのかなと思います。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>ありがとうございました。2つ目の話は本当にさっきのフェーズ2にかかっている地域が、やっぱり使うことをゴールにしていると、その先が無い。 どんな力をつけるために今このツールを使っているというところが落ちて行かなければいけなくて、そういう意味では本当に今飯村委員がおっしゃったとおりだと思います。ぜひその辺を、ターゲットとしては、教員ではなくて保護者がわかるように、それが書かれているとな</p>

	<p>おいしいなど。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。 前田先生に最初にこのコメントをいただいておりますが、ここでしっかり価値づけをしていただいて、今後広く、いろいろな人に見て頂ければと思っています。</p>
中川委員長	<p>どうもありがとうございました。今回はこれですごくまとまっていて良いと思いますが、先程飯村委員も言われたように、どんな能力をどうつけるためにこれをやっているというのが図解入りとか、そういうもので解説をされるのが、バージョン2バージョン3あたりでぜひ期待したいと思っています。 非常に楽しみだと率直に感じました。ありがとうございました。</p> <p>次に「オ タブレット活用状況に関するアンケートの実施結果について（速報値）」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>前回と前々回、タブレットの導入効果を定量的に把握したいというところで討議いただきました。タブレット導入の際、学びに向かう力、知識・技能、思考力・判断力・表現力、そういったところを育成するためにICTを活用していくというところで導入をしています。その手段として、考えを整理したり、対話したり、表現したりというところでどの程度ICTを活用しているかをアンケートで取りました。 今回はそこに関する結果を抜粋して報告します。全体版は後日公開したいと考えております。このデータは精査がまだ充分終わっていないので、二次利用はお控えいただくようによろしくお願いいたします。 アンケートは、児童生徒と教員を対象に、2月に実施しました。中学校3年生が卒業シーズンで、タブレット回収時期と重なってしまい、少し回答数が少ないです。 関連するところの設問ですが、まず「タブレット端末を授業のどのような場面で使っていますか」については、昨年度の「この教科で使っていますか」とか「このツールは使っていますか」に加え、「どのような場面で」という設問を設けております。回答のうち「資料を検索して調べるときに使う」は使いやすくて伸びているのと、あと資料の下線①②③の意見や考えを提出するときにするのが50%程度で、ロイロノートで提出をするのは使い慣れているところだと思います。 次に「授業の『自分の考えていることをまとめる』場面で、どの程度タブレットを使っていますか」で、主観的ですが「とても使う」「ま</p>

「あまり使う」「あんまり使わない」「全然使わない」を聞きました。ただし、先ほど第2フェーズ第3フェーズという話題提供がありましたように、自分のやり方に合うように必要な時にICTを使うという選択もあると思います。

参考に、全国学力調査の結果も載せています。発表する場面でICTを使っているかの回答は、熊本市は全国平均よりも高いです。一方で、自分の考えをまとめる活動に関しては、全国平均とほぼ同じです。

次が「授業の『自分の考えとほかの人の考えの意見交換を行い、自分の考えを深める』場面で、どの程度タブレットを使っていますか」です。先生たちが考えているよりも児童生徒の方が上ということで、子どもたちはそれなりに使っていると考えているということが見て取れます。その意味はまた考察が必要と思っています。また、「授業の『自分の考えや学習内容を整理し、資料を作成して発表する』場面で、どの程度タブレットを使っていますか」もやはり子どもたちのほうが肯定的な意見が上がっている印象を受けています。

次に学習意欲等に関するところで、まず「タブレットを使った学習は楽しいですか」は概ね肯定的な回答で、先生方も学習意欲が高まるという意見を持っていることが見て取れます。次の「タブレットを使うと学習内容がよく分かりますか」にも肯定的で、意欲があるから分かるというところで肯定的な意見が概ね取れていると思います。

次の「タブレットを使うと使わない時に比べて、考えをまとめて話し合ったり、発表することに自信が持てるようになりましたか」は、教育長、教育次長から、発表で自信がつくということも子どもたちの考えとしてあるのではという指摘があり、設問に加えました。

ツールを使うことで、発表することへのハードルが下がるというところで、どちらかという先生のほうが肯定的な気がしますが、概ね良い結果が出ています。これから、このような導入効果があるというところを説明できる形にしていきたいと思います。

最後に、「教師主導の『教わる』から子どもが主役の『学びとる』授業を行う際に、次の場面でタブレット端末はどのくらい有効だと感じますか」ということで、めあて、対話、振り返りの場面でどの程度役に立つかも先生に伺いました。この設問にも肯定的回答が多いと受け取っております。

余談ですが、教科やツールの使用状況に関しては、昨年度と今年度を比べたときに、ほとんどグラフの形が同じでした。そうすると量的にはあまり状況が変わっていないと読み取られてしまう感じもありますが、先ほどの実践事例集などで、質的には大きく変わっているという

	<p>ところもありますので、そういったところもこういう定量的な把握の中から広げていけるように、また、今後設問内容や、どのように情報を取っていくかも検討を深めていきたいと思っております。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>ありがとうございました。最後に言われた、定量的なものの中で質をどういふふうにピックアップする、これも大変難しいことで。でも合わせ技というのは確かにその通りだと思って聞いていました。</p> <p>みなさんから質問ご意見いかがでしょう。特別支援学校では今発表になったような状況と同じ所違う所などどうですか。</p>
<p>満生委員</p>	<p>そもそも特別支援学校の教育課程が小学校や中学校と違うので、一概にこう同じような形で発表したり調べたりということができるかどうかというのは、子どもそれぞれにもよりますし、ちょっと合わないところもあるとは思っています。今回のアンケートは、本校は小学部と中学部があり私は小学部在籍なので、小学校で答えましたが、小学校の支援学級にいた経験から答えたところもあります。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>どうもありがとうございました。特にデジタル教科書とか、デジタルであるということの良さを、全国の特別支援学校、特別支援学級の先生は凄く実感として感じられている方が多いので、そういう意味では非常にいいツールにこれからもなっていくと思います。</p>
<p>満生委員</p>	<p>本校の場合は知的障害のある学校なので、教科書も一般図書なので、それがデジタルというのはちょっとないだろうと思っています。検定本はデジタル教科書であるかもしれませんが、そういうことを使う子どももいれば使わない子どももいて、本校の場合は使わない子の方が多いので。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>実態に応じてというのはその通りだと思います。</p> <p>私から要望として、右側に考察的なものが載っていましたが、できれば、ここで何が分かったかというのが、ワンチームで分かるようなものがないなと思います。例えば、「デジタル教科書に関しては、保護者は期待もしているし、同時に不安も感じている」という感じで。一つの文章で全部その一枚がわかるような一言があるといいなと感じています。</p> <p>それこそデジタル教科書で言うと、私は国のデジタル教科書の調査研究の主査をしまして、毎年300ページ以上のものを出してくるんです（概要版が別にあります）。先ほどの簡易版ではないですが。</p>

事務局	<p>善処します。なるべく簡潔な形で見て取れるように、また、教科ごとにその指導主事の先生にコメントをいただこうとは思っております。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございました。 はい、他によろしいですかね？</p>
飯村委員	<p>「タブレット端末を授業のどのような場面で使っていますか」というところで、小学校低学年で飛び抜けているところが何箇所かあります。例えば、「メモや記録をするために使う」「ほかの人と意見を話し合うときに使う」「意見考えを提出するときに使う」「考えをまとめて表現することに使う」などで、低学年の時だと、なかなか言葉というものがまだ成熟していなくて、それを言葉で表現するというのが難しいところを、うまくテクノロジーを使うことで相手に伝えたり、自分の言葉でうまくまとめられないことを表現したりというのに使用しているのではないかと思いました。あくまでも僕の一つの見方ではありますが、こういうことも読み取れるのではないかと思いました。子どもたち自身がそのように考えているのではないかと思いましたので、お伝えさせていただきました。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございました。それでは引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは「カ R5 学習者用タブレット端末利用についての同意書について」、事務局からお願ひします。</p>
事務局	<p>タブレット端末を利用する際には、はじめに同意書にサインをして、児童生徒も保護者もその文言に同意していただくことからスタートして行きます。</p> <p>令和4年度の同意書に「不適切な使用があった場合、保護者や学校、管理者が使用履歴等を確認することがあります」という文言があります。</p> <p>この文言に関連して、2点、学校からの問い合わせがありました。まず、本校の児童生徒がどうも不適切な使用をしているようだが疑わしい。この同意書があれば、保護者および児童生徒に確認を取らずに、使用履歴を学校や管理者が確認することが可能なのかということです。もう1点は、保護者が我が子の使用履歴を閲覧する時には子どもの同意が必要なのかという点です。</p>



	<p>この点に関して法制課に確認したところ、端末の使用履歴を確認することは、子どものプライバシー侵害には当たらないということです。これは保護者が子どもの端末を見ることも、紙媒体のテストや宿題を見ることと同義であるということです。じゃあ何でも見ていいかというわけではなく、例えば子どもが大事につけている日記あたりは、いくら親だからといっても、それはちょっと違う。ある程度許容範囲の中で、子どもに同意を取らなくても見るというかたちです。</p> <p>ただし、先ほどの文言だと、不適切な使用の疑いがある場合は管理者確認することができない。つまり不適切な使用が確認された場合は確認できるという文言でしたので、令和5年度は「不適切な使用が疑われる場合は、学校、教育委員会が使用履歴を確認することがあります」という文言に変更して、今年度も同意書を取って各学校に端末をよりよく使っていただくと思っています。ご意見よろしくお願いたします。</p>
中川委員長	<p>はい、どうもありがとうございました。ご質問、ご意見いかがでしょう。</p> <p>まあ、踏み込んだということですよ。</p>
上妻委員	<p>ありがたいなと思います。「不適切な使用が疑われる場合は、学校、教育委員会が使用履歴を確認することがあります」ということになり、不適切な使用の疑いがあっても、そうでなかったことも証明できるので、大変助かります。生徒指導事案があり、真実を証明しようとしても、できなかったこともあるので、このような文言となり、よかったです。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございます。悪いことばかりではないですよ、本当に。</p>
飯村委員	<p>話が戻りますが、IDとパスワード管理のところ、これらが漏れると、どのようなことができてしまうのでしょうか。実は恥ずかしながら、本学でパスワード漏洩のインシデントが以前発生しました。このインシデントは、二要素認証を入れていれば発生を防ぐことができたものでした。二要素認証を今後教育で入れていくのか、小学校ではもちろん極めて高いハードルであると認識していますが、この辺り（セキュリティ教育）もどのように考えていくか、少し念頭に置いておいた方がよいのではないかと思います。仮に、これらが漏洩した場合にどのような被害が想定されるのか、少し気になったものでお尋ねしました。先ほど思い付かずにすみません。</p>

事務局	IDとパスワードが漏れてしまうと、なりすまして学習支援アプリ等に入れるというところがあります。
飯村委員	それら情報の漏洩が、単にアプリケーションが使えるくらいのところであれば重大な問題にはならないと思いますが、機密性の高い情報が漏洩してしまうと重大な問題になると思ひましてお尋ねしました。二要素認証を入れられないにしても、そのアカウントでログインした先ではある程度サンドボックス的にアクセス制限を行うなどの対策をしておく必要があるように感じました。小学校に二要素認証を入れなければいけないと言うつもりはありません。現状、現場を考えますと無理だとは思っています。
中川委員長	<p>ありがとうございました。今後も考えていかなければいけない部分ではありますね。</p> <p>同意書の方はいかがですか。 それでは引き続き宜しくお願いいたします。</p> <p>（「キ 次期タブレット端末等更改に向けて」討議） ※非公開</p>
中川委員長	以上になります。皆さん、ご意見ありがとうございました。すべての議題が終わりましたので、事務局にお返しをしたいと思います。
事務局	<p>議長、議事の進行ありがとうございました。</p> <p>ここで、教育センター所長の小田からお礼を申し上げます。 【小田所長 お礼の挨拶】</p>
閉会 (事務局)	<p>これで令和4年度（2022年度）第3回 熊本市教育の情報化検討委員会を閉会いたします。</p> <p>委員の皆様 ありがとうございました。</p>